

1, 実技審査における着眼点

下記の項目を着眼点として、当該段位相当の実力があるか否かを審査する。

1, 初段ないし三段

- ① 正しい着装と礼法
面紐が結び目から 40cm 以上ある者は不合格とする。
- ② 適正な姿勢
- ③ 基本に則した打突
- ④ 充実した氣勢

2, 四段ないし五段

初段ないし三段の着眼点に下記の項目を加えたもの

- ① 応用技の錬熟度
- ② 鍛錬度
- ③ 勝負の歩合

2, 日本剣道形審査における着眼点・留意事項

- 1, 立会前後の作法、立会の所作、刀の取扱いを適切に行っているか。
 - ① 立会前の作法においては、太刀の形を行う際、小太刀の置き方に留意すること。
 - ② 立会の所作においては、提刀、帯刀した時、刃部が上を向いていること。
 - ①、②が間違っている場合は不合格とする。
- 2, 五つの構え、小太刀の形における半身の構え、入り身の所作を正しく行っているか。
- 3, 目付、呼吸法等を心得、終始充実した氣勢、氣迫をもって合気で行い、段位にふさわしい迫真性、重厚性が見受けられるか。
「目付」は原則として、相手の目を見るが「遠山の目付」で行う。
- 4, 打太刀、仕太刀の関係を理解し、原則として仕太刀は打太刀に従って始動しているか。
- 5, 太刀の形においては「機を見て」、小太刀の形においては「入身のなろうとするところを」、とある打突の時期は適切であるか。
「機」とは、心と体と術の変わりの際に起こるときの兆しのこと。
「入り身」とは氣勢を充実して相手の手元に飛び込んでいく状態。
- 6, 各本ごとの理合を熟知し、技に応じた打突の度合い、緩急強弱を心得一拍子で行っているか。
- 7, 打太刀は、一足一刀の間合から打突部位を打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を確実に打突しているか。
- 8, 太刀を振りかぶる度合いを心得、振りかぶり過ぎて剣先が両拳の高さより下がってはいないか。
- 9, 足さばきはすり足で行い、打突した時後ろ足を残さず前足に伴ってひきつけているか。
- 10, 仕太刀は打突後、十分な気位で、残心を示しているか。打太刀は仕太刀の十分な残心を見届けてから始動しているか。

◎初段：太刀の形 3 本、二段：太刀の形 5 本、三段：太刀の形 7 本

四段、五段：太刀の形 7 本と小太刀の形 3 本とする。

◎その段位に相当する剣道形を身に付けている者を総合的に判断し合格とする。

◎間違っものは 2 回までやり直しを許可する。

3, 学科審査

70 点以上を合格とする。

社会体育指導者初級の認定を受けた者については、五段の学科審査を免除する。